

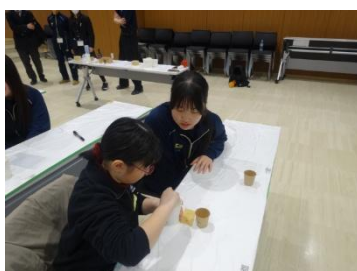
3月14日(土)、札幌学院大学新札幌キャンパスにおいて「親子で一日大学体験」が開催されました。この企画は、札幌学院大学の「Many Answers Project」、平岸高校の「プロジェクトクルー」、北ガスフレアストが連携して実施したものです。



この取り組みは、親子が同じキャンパスで学びを体験し、保護者は大学の本格的な講義を、子どもたちは特別授業を受講することで、親子で学びを共有することを目的としています。平岸高校は小学生向けの90分の特別授業を担当しました。

プロジェクトクルーのメンバー5名が中心となり、校内でスタッフを募集したところ、1・2年生から15名の生徒が参加を希望しました。1月から大学生と打ち合わせを重ねながら授業内容を検討し、教材の準備や役割分担などを行い、当日に向けて準備を進めてきました。

当日は朝9時に会場へ集合し、大学生との最終打ち合わせを行った後、受付や誘導、会場準備などを協力して行いました。開会式では、高校生を代表してプロジェクトクルーリーダーの和田さん(2年)が挨拶を行い、10時40分から特別授業がスタートしました。司会進行は星川さん(2年)が担当しました。



前半の40分は「バスボム作り」に挑戦しました。小学生の横に高校生が付き添い、作り方をサポートしながらクエン酸と重曹を使って入浴剤を作りました。完成したバスボムを手にした小学生たちはとても嬉しそうな様子でした。

休憩をはさんだ後半50分は「ジャンケン列車ゲーム」を行いました。まず、小学生たちは配布されたダンボールに思い思いのデザインを描き、自分だけのオリジナル列車を制作しました。高校生のデザインを見て刺激を受けながら、カラフルで個性豊かな列車が次々と完成しました。



完成した列車をスズランテープで肩から下げ、いよいよジャンケン列車ゲームのスタートです。音楽が止まるたびにジャンケンを行い、負けた人が勝った人の列車につながっていくというルールで進められ、最後には全員が一つの長い列車になりました。小学生も高校生も一緒になって盛り上がり、会場には笑顔があふれていました。大学の講義を終えた保護者の方々も、その様子を楽しそうに見守っていました。

今回の取り組みを終えて、生徒たちからは「普段話す機会の少ない小学生とたくさん話すことができ楽しかった」「小学生の喜ぶ姿を見ることができて嬉しかった」といった声が聞かれました。また、大学の先生からは、高校生のアイデアや臨機応変な対応力、小学生との関わり方の上手さについてお褒めの言葉をいただきました。

小学生の学びを支える立場として活動した今回の体験は、生徒たちにとって大きな成長につながる経験となりました。

